



令和4年6月30日

かみせや

横浜市立上瀬谷小学校 学校だより

7月号

上瀬谷小学校教育目標

学び合う子

認め合う子

鍛え合う子

子どもたちの感じる心を大切に

校長 小林 京子

「あの青い空のように 澄み切った心になるように」

保護者の皆様も小学校で輪唱した経験のある歌ではないでしょうか。久しぶりに全校で歌を歌いました。少しずつではありますが、マスクを着用している生活が続けながらも学校の活動も全校で集まることができるようになってきました。互いの声を聴いたり、互いの表情を見ながら表現したりすることが足りていなかったこの2年間でした。「6年生って動きがきびきびしていてかっこいいな」

「友達と一緒に歌うって楽しいな」こんな風に子どもたちが感じるような場面を大切にしていきたいと思います。また、5月末から、高学年の宿泊体験学習や修学旅行が続きました。いずれも2年ぶりに予定通りの日に催行することができ、子どもたちは、宿泊を通じた友達との生活を満喫してきました。さらには、6年生児童の提案による上瀬谷小初の活動「きらぼか班」と呼ばれる、1年生から6年生までの子どもたちが集まるグループで「はらっぱ」（旧上瀬谷通信施設）に出かけることもでき、豊かな体験学習ができました。

小学校に入学してからずっとマスクを着用し、ソーシャルディスタンスをとって学校生活を送ってきた子どもたちが大半です。この影響がないわけがない、と危機感を覚えます。子ども同士が関われば、喜びもいっぱいですが、トラブルも起きます。それを一つ一つ乗り越え、子どもたちは生活していきます。学校生活の様々な場面を丁寧に見取りながら、子どもたちの感じる心を育てていきたいと思います。

6年生の修学旅行の一場面です。

「生きているといろんなことを思う。それをいいと思うのか悪いと思うのかは自分次第」

「生きていることが当たり前ではない。私は、『生きる幸せを感じられる心』を学べたと思いました」

これは、修学旅行から帰ってきた児童の振り返りの一部です。星野富弘美術館で、一枚一枚の絵をじっくり丁寧に見ている子がいました。「こういうの好きなんです」と、展示ブースを何往復かして見比べていました。また、別の子は、「私は修学旅行で『思いやりの心』を探しに来たので、それを探しています。」と、気に入った作品を指さしてくれました。その作品の星野富弘さんの詩は、「※許すということを知ったら、重かった悲しみが少し軽くなった。もっともっと許そう。私だって数えきれないほどたくさん許されているんだもの。」でした。気が付けば、どの子も個人で作品に向き合い、自分と作者（星野富弘さん）の世界に入っていました。

※引用 星野富弘著 「もっと許そう」

「若い頃、大げがをし、手足が動かなくなった星野さんが、絵や詩で自分の思いを表現する。つらかったら星野さんが自分の作品で、人を励ましてきた。そんな生き方をしてきた人がいる。」ということを教室の中で学び、実際に美術館でその作品に出合ったときの子どもたちは、自分の12歳なりの生活や生き方と重ねて感じているのだなと思った瞬間でした。

今月も子どもたちにとって豊かな心が育つ時間がたくさん学校の生活にしたいと思います。